

国道159号(浅野川大橋～東山～山の上)交通安全対策協議会

# 第1回協議会以降の 決定事項

平成19年3月5日



1

## 第1回協議会以降の決定事項

第1回協議会 (平成19年1月10日)

「自転車走行指導帯の色」「看板の色・デザイン」については、国土交通省・県警本部・金沢市(景観行政担当課)の協議による。



1月30日(火)に**現地検討会**を開催

学識経験者・国土交通省・県警本部・金沢市(景観行政担当課)の協議により決定。

2

## 現地検討会での決定事項

### 自転車走行指導帯は「灰桜色」

「灰桜色」: 1.25mのうち0.75m部分のみ着色  
「180cm×75cm」(タタミ一畳分)の着色帯を  
30cm間隔で配置

視認性向上、金沢らしさの演出

#### ▼平面イメージ

※景観に配慮し、路面の色は「灰桜色」とする

※1.25mのうち、視認1.5mを除く0.75m部分に着色 → 1.8m着色+0.3m間隔+1.8m着色+... → 視認性の向上



3

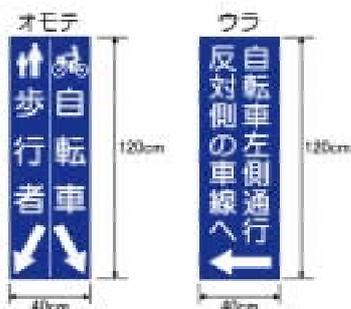
## 現地検討会での決定事項

### 看板は「青地に白文字」

裏面は「自転車左側通行・反対側の車線へ」

#### ▼看板イメージ

※景観に配慮し「青色に白文字」とする



#### ▼整備イメージ



(官製管理番号)に準拠した場合の一例)

4

## 現場施工状況



5

## 現場施工状況



6

## 現場施工状況



7

## 現場施工状況



8

## 現場施工状況



平成19年2月24日(土)、正午撮影

9

国道 159 号（浅野川大橋～東山～山の上）交通安全対策協議会  
第 1 回協議会 決定事項

第 1 回協議会での決定事項は以下の通り。

1. 平成 19 年 3 月 19 日（月）～ 5 月中を目処に、自転車の路肩走行指導強化（バスレーン左端を左側通行）を行う社会実験を実施し、歩行者・自転車・クルマそれぞれにとって「安全で安心して通行できる道路空間の創出」を図る。
2. 社会実験の実施にあたっては、地域住民・警察・行政の連携により地域ぐるみで交通事故防止対策を実施し、実験中の事故防止を徹底する。
3. 社会実験の効果検証や事前告知、交通安全意識の啓発を図るため、平成 19 年 1 月 22 日（月）～2 月 5 日（月）にかけて、事前アンケート調査を実施する。なお、アンケートの配布には、協議会及び幹事会委員の方々にご協力いただく。
4. 今後、社会実験の周知・PR 方法について検討し、対象区間周辺地域だけではなく、交通ルール及びマナーの広域的な周知徹底に努める。
5. 社会実験の実施時間帯は、朝のバス専用レーンの時間帯（朝 7 時 30 分～9 時）を想定しているが、最終的な決定は今後の協議会及び幹事会での議論を受けて決定する。
6. 平成 19 年 2 月 5 日（月）より、社会実験の準備工事を行う。「路肩走行指導強化帯・路面標示・看板」の色や大きさ等については、「国土交通省・県警本部・金沢市（景観行政担当課）」の協議により決定する。  
1 月 30 日（火）に現地検討会を開催し、看板及び路面標示を決定（詳細は資料 - 1 参照）。  
自転車走行位置の名称は「路肩走行指導強化帯」を改め、「自転車走行指導帯」に仮決定（第 2 回協議会で最終決定）。
7. 平成 19 年 2 月 21 日（水）の午後に、第 2 回幹事会を開催し、事前アンケート結果（速報）の確認と社会実験の周知・PR 方法について議論する。
8. 平成 19 年 3 月 10 日頃に第 2 回協議会を開催し、実施内容の最終決定を行う。その後、3 月 19 日（月）より社会実験を開始する。

【北陸】

平成19年2月23日(金)

北國新聞(朝刊) 第1面 石川県



バス専用レーンの一部が灰桜色に舗装された道路 —23日午前10時半、金沢市東山3丁目

## 灰桜色の「自転車帯」

金沢市東山、森山地区の国道159号で、バス専用レーン内に自転車走らせの社会実験に取り組む国土交通省金沢河川国道事務所などは二十二日夜、「自転車

滑らない材質の塗料を用い、バス専用レーンの左側に縦一八〇センチ、幅七五センチのサイズの舗装がつながる形で「走行帯」がつくられた。

### 金沢・東山、森山の国道159号

## 来月の社会実験へ舗装

走行指導帯」を示す場所を「灰桜色」に塗り替える舗装工事を始めた。工事は三月上旬までに終え、同十九日から実験を開始する。

工事は午後九時から、東山交差点付近の片側約二百八十メートルの道路で行われた。

実験は、国道159号山の上交差点から浅野川大橋交差点に至る約一キロで行われる。自転車を歩道から分離し、自転車と歩行者が接触する危険な状態を解消する。実験は五月までの約二カ月間行われる。